

NPO 法人流山市国際交流協会



# NIFANEWS

発行: NPO 法人 流山市国際交流協会  
〒270-0111 流山市江戸川台東 1-4 3F  
国際理解サポートセンター内  
☎ : 04-7128-6007  
Email: nifa-support@bz04.plala.or.jp  
http: nifa-home.sakura.ne.jp/

## NIFA は30 歳になりました これからも 「広げよう世界の友と地域の輪」 を続けます

1991 年(平成 3 年)5 月 1 日、NIFA は生まれました。30 年は長くもあり、短くもあり、  
変えられるものは? 変えないものは?

### NIFA が生まれた頃を思い起こす

当時の流山は緑が多く残り、自然豊かな、都心近くにありながら安らぎのある街でした。一方都市化も進み始め、人口が 14 万人を超えた年でした。この街に国際交流協会が誕生したのは流山、流山中央両ロータリークラブの会員の皆様をはじめ、市内主要団体の皆様の尽力のお陰。近隣の市の動きとも呼応するものでした。

当時の日本は、それまでのバブル景気が終わり「失われた 10 年」の始まり。でもまだジュリアナ東京スタイルのディスコは大変な賑わいでした。小兵の大横綱千代の富士が引退し、若貴ブームの到来もこの年。SMAP は「Can't Stop!! -LOVING-」で CD デビューしました。

世界は、1989 年のベルリンの壁崩壊に続き 2 年後にはソヴィエト連邦が崩壊、第二次世界大戦後続いた東西冷戦は終わりを告げました。一方新たな地域紛争も生まれ、湾岸戦争やユーゴスラヴィアの内戦は泥沼化していきます。



### NIFA の 30 年は「グローバル化」ともピッタリ重なります

「グローバル化」とは、情報通信技術の進展、交通手段の発達により移動が容易になり、経済の国際的な開放等により、人、物、情報の国際的移動が活性化して、様々な分野で「国境」の意義があいまいになるとともに、各国が相互に依存し、他国や国際社会の動向を無視できなくなっている現象ととらえることができます。

ポケットベル(ポケベル)が普及したのは NIFA が生まれた頃でした。外出中も会社から紐でつながれていたような感覚を持った方もいたのでは? しかし 1990 年代前半には PHS(ピッチ)の携帯電話全盛、若い人たち(今の私達世代?)は外で競うように電話をしていましたね。インターネットの普及も 1990 年代中頃です。

今や通信、IT 技術の急速な発展・普及により、世界の誰とでも画面越しに意思疎通が可能になり、地球のどの場所でも起こったことも瞬時に世界中を駆け巡る時代です。



### グローバル化の中で続けてきたこと・もの

この 30 年間、NIFA が行ってきた活動は、「相互理解」と「助け合い」。外国出身の方に日本語を学ぶ機会を、市民の方には外国語に触れる機会を設けてきました。又自分たちの料理や、歌唱・舞踊、文化・芸能などを紹介し合い、一緒に楽しむイベントも開催してきました。海外から移り住んで来た方に、より暮らしやすい環境を整える支援も続けてきました。どれも丁寧な手作りです。

グローバル化の進行は多くの海外情報をもたらしてきましたが、NIFA の活動は直接その国、地域の方と接することでより相互理解を深めるものです。「大量一括」の時代方向の中で、「少量個別」の姿勢を続けてきました。



### 30 周年を機に考える

この 30 年、時代も街の様子もすっかり変わりました。つくばエクスプレスの沿線には市の中核施設が集まり、新川耕地には有数の物流拠点が生まれ、それまでの郊外型都市の様相は多面化してきました。多くの若い人たちが移り住み、海外から移住する人も増えています。今年の 1 月には人口が 20 万人を超え、3 千 1 百人以上の外国出身の方が暮らす街になりました。これからも「相互理解」、「助け合い」を「手作り」で続けるために、「やりたいこと」「できること」は何か、事業部の中を見直し、場合によってはその枠を外して考える、30 周年はよい機会かもしれません。





わ ころ  
 ~我が心のおまつり~

やれ おど あくま  
**ヤレの踊る悪魔**

DIABLOS DANZANTES DE YARE



ベネズエラ/ミゲール・アパルセロさん  
 (日本語講座事業部)

やれ おど あくま  
 ヤレ(注)の踊る悪魔

ミゲール・アパルセロさん(ベネズエラ出身)

「コーパス・クリスティの日」すなわち「キリストの聖体拝領(の日)」は、聖体拝領(ミサ)においてキリストを追悼し、イエスキリストにミサを献げるローマカトリック教会の毎年の行事であり、その目的は、聖体拝領を通じてキリストの体と血(十字架上の犠牲)を想起することです。これは復活祭の木曜日(聖木曜日)の後の第9木曜日に行われます。

ベネズエラではコーパス・クリスティの日は特別な方法で行われます。それは「ヤレの踊る悪魔」と呼ばれるローカルバージョンで、ミランダ州のサンフランシスコ・デ・ヤレで行われます。これはベネズエラの最も重要な宗教文化のあらわれであり、コーパス・クリスティの木曜日に開催されます。人々は赤ずくめの衣装とグロテスクな仮面をつけドラムの音に合わせて道々に踊り出し、そして授けられた数々の恵みについて祭壇の聖体に祈りを捧げます。祝祭の最高潮で悪魔どもは聖体の前にひれ伏しますが、これは悪に対する善の勝利を意味します。

この行事は、2012年12月、ユネスコの無形文化世界遺産に登録されました。それはしっかりと根づいた偉大な文化の結果であり、国民に団結のメッセージをもたらしました。この祭りには創造性、団結の精神、信仰心があり、地域集団と文化のアイデンティティの感覚をはぐくむものです。

(注) ヤレ(Yare):ベネズエラの首都カラカスから南方 50kmのところにある。 (翻訳:大塚 和雄さん 外国語支援事業部)

DIABLOS DANZANTES DE YARE

Miguel Aparcero (Venezuela)

El Corpus Christi o Solemnidad del Cuerpo y la Sangre de Cristo, es una celebracion anual de la iglesia catolica romana que conmemora la presencia de Cristo en el Sacramento de la Eucaristia y honra el santo sacrificio de Jesucristo o Eucaristia,y tiene como objetivo, recordar el Cuerpo y la Sangre de Cristo, a traves del Santisimo Sacramento.Se realiza el noveno jueves despues del Jueves de Semana Santa.

En Venezuela , el dia de Corpus Christi , lo celebran de una manera especial,mediante una version local que se denomina "Diablos Danzantes de Yare"y se lleva a cabo en el pueblo San Francisco de Yare del estado Miranda.Es la manifestacion cultural religiosa mas importante de Venezuela, celebrada anualmente el Jueves de Corpus Christi, y el pueblo sale a danzar al sonido de tambores por sus calles, con trajes completamente de color rojo y mascaras de apariencia grotesca, a rendir honores al Santisimo Sacramento del Altar, por los favores concebidos. En el momento culminante de la celebracion , los diablos se rinden ante el santisimo, simbolizando asi, el triunfo del bien sobre el mal.

Fue declarada Patrimonio Cultural intangible de la Humanidad , en Diciembre de 2012, por la Organizacion de las Naciones Unidas para la Educacion , Ciencia y la cultura (UNESCO).

Se ha consituido como una practica cultural de gran arraigo y trascendencia, que lleva un mensaje de solidaridad para todos los pueblos.La celebracion esta dotada de creatividad , espiritu de organizacion y fe religiosa, fomentando un fuerte sentimiento de identidad comunitaria y cultural.





Q. NIFAに入会されたのはいつ頃、又動機は何ですか？

A. 私は2001年6月まで40年間会社に勤務していました。しかし退職すると毎日が休日、学生の頃からの山登りを始めたり、子どもの頃ピアノを習っていたのでジャズの教室に通い始めました。それでもなおゆとりがあり、ある時「広報ながれやま」で語学講座の募集広告を見つけ「スペイン語入門」講座に入りました。2003年4月のこと、これがNIFA入会です。それからしばらくして2008年3月9日、初石公民館で（恒例の）「成果発表会」があり、この時に初めて熊坂先生の指揮で「ワールドハーモニー」を聞き、『あっ、これはいい』と即座に感じました。私は外国語にも関心があり、現地語で歌うことに興味がわきました。この時からスペイン語はフェイドアウトし、ワールドハーモニーに参加しました。

A. 今まで接することが少なかった中国語や、タガログ語、イタリア語などでも歌を通じて何となくその国の感じが分かるような気がします。歌にはその国の人たちの心や情景が入っていますし、歌詞だけではなくメロディや曲の構成でも国の違いがあります。それを感じながら歌えるのがワールドハーモニーの楽しさです。

Q. ワールドハーモニーができて間もない頃ですね？

A. はい、確かできて2年くらいの時だと思います。指導頂いた熊坂先生の、新しいものをおやりになるお考えと明るく、活動的な姿に惹かれました。バトンを引き継がれた熊谷先生も明るく素晴らしい音楽のセンスで私たちに指導してくださり、楽しく参加しています。西澤先生もリズムや歯切れのよいピアノで私たちに引っ張っていただいています。又西澤先生は二人のお仲間とピアノ連弾のコンサートを開かれ、毎回楽しく聴いています。

A. このように素晴らしい方に指導頂いているのにメンバーが少ないのが残念です。特に男性は3人です。コーラスは少なくとも20人くらい、男性もその3分の1くらいいるといいのですが。カラオケには行っても、外国語で歌うことに抵抗感があるのでしょうか？若い方にも入って欲しいのですが、難しいでしょうか？

Q. 商社にご勤務とお聞きしましたが駐在のご経験は？

A. 担当していた商品の関係で出張が多かったですが、ジャカルタに2年いて合弁事業を立ち上げました。言葉に不自由し、苦労も多かったですが勉強になりました。

A. そのあと1991年から3年間、家族とニューヨークに駐在しました。

Q. 生活はいかがでしたか？

A. 高齢者には住みにくい街だと感じました。日本のような‘おせっかい’はありません。近くの高齢の女性は1人で何でもしなければならぬ様子で生活していました。

A. 住んでみて所得、人種、職業などによる差別的な空気は感じました。観光で行っても分かりません。一方、州や都市の自治は進んでいて、付加価値税は地域により異なります。税率を上げ、教育投資に向けたりするところもあります。

Q. 観光地は行かれましたか？

A. ディズニーワールド（フロリダ）もグランドキャニオンもナイアガラもとにかく‘バカでかい’スケールです。子供は世界の広さを実感できるのではないのでしょうか。

Q. 先日のレッスンで、「ワールドハーモニー」の楽譜を拝見しました。作曲もなさるのですか？

A. 退職して時間と気持ちにゆとりが生まれ、作曲できるようになりました。元来音楽は好きです。難しい曲は作れません、頭に浮かんだものを曲にしています。そもそも孫を見ていると面白い、子供心を想像して『こんなものかな』と作りました。童謡のような曲です。例えば孫から『ガマの穂ってなあに？』と聞かれると、そのままのイメージで曲を作ります。（曲集のファイルを開きながら）

Q. 詩もご自身で書かれるのですか？

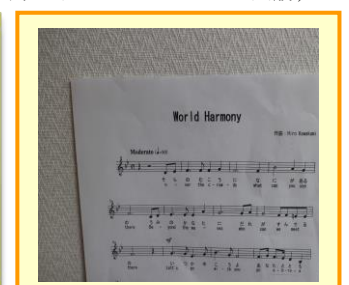
A. 殆どそうです。そのうち依頼されて作るようにもなりました。10年以上前に流山市の‘ゆうゆう大学’の歌を作りました。校歌のような扱いです。友人の高校の同窓会の曲も依頼されて作ったりもしました。

Q. 作った曲をお孫さんに聞かせたりしますか？

A. どうもあまり興味がないようです。

◆様子を見たり、イメージからすぐ曲が作れるのはすごいことです。面白いお話をありがとうございました。

（4月2日インタビュー西山勝）



そりつ しゅうねん よ
NIFA創立30周年に寄せて

NIFA創立30周年に際し、会員の方々からお声をいただきました。
※このページの写真はコロナ禍前、またはお一人の写真を借用しました。



おお ひと りゅうがくせい であ じんせい おお いちぶ
多くの人、留学生との出会いが人生の大きな一部

はた ひろこ (がいこくごこう座事業部)
畑 浩子さん (外国語講座事業部)



NIFA創立30年おめでとうございます。この歴史は、会を支えてくださっている事務局の方々の尽力の賜物だと思
います。特に、NIFA の存続について揺らぎが生じていた頃、再度会長を引き受けてくださった佐藤元子さん
に感謝しています。

私は、NIFA創設間もなく会員となり、ホームステイ、語学講座委員会に所属していました。まだ、初石公民館の
ない頃でしたので、若かった私は、初石から北部公民館、南流山センターなどへ自転車を走らせました。

当時は麗澤大学との関係が密接で、留学生の一日受け入れ(ホームビジット)や、年度末の行事に外国人講師を招待したりしました。盛り
沢山の手作り料理がテーブルを彩り、英語、中国語、韓国語が飛び交い、まさに国際的なパーティーでした。

また、会員同士も深い親交を重ねました。台湾、シンガポールへの旅行、福島への一泊国内体験留学、講座の後のランチとおしゃべりな
ど、楽しい思い出がいっぱいです。

多くの人との出会い、受け入れた留学生との交流は私の人生の大きな一部となっています。そして、お世話になったお礼に Darnell
Watson さん、Richard Lam さんを英語講師に紹介いたしました。これらの講座が定着していることは嬉しいことの一つです。

国際交流協会が地を固め、さらなる発展をされるよう願っております。

最後に、私の英語の道しるべでもあった本村先生に感謝し、ご冥福をお祈りいたします。

き わかも の がいこくごしえん
来たれ若者よ、外国語支援
じぎょうぶ
事業部に!

おおつか かずお
大塚 和雄さん
(外国語支援事業部
ご担当)
スペイン語担当



2011年1月流山市国際交流協会に入会した。NIFAが間
もなく 20周年を迎えようとする頃である。在職時に海外
留学・海外勤務を経験したが、馴れない異国の地で現地の
友のちょっとしたアドバイスにどんなに感激し、勇気づけられ
たことか。「この恩を返さずして何とする」という高邁な考えの
もと、「日本で困っているかもしれない外国人に何かをしてあげ
たい」と思い、NIFA の会員になった。

「外国語は図々しい人ほど上達する」というのが持論であ
るが、30才を過ぎての新しい外国語への挑戦は、それほど
容易ではなかった。しかし、実力5割・努力3割、それに 2割
の気合を上乗せすれば 10割、情報を必要とする外国人に
通じないはずはないとの考 えで、外国語支援事業部の
仲間とともに、ホームページに掲載する最重要情報の翻訳
に取り組んでいる。

悲しいかな、瞬時の頭脳回転を必要とする会話は母語で
ある日本語でも難しくなり、いわゆる「通訳」は若い人に任せ
るべきとの境地に至っている。若者よ、外国語支援事業部に
来たれ、君は必要とされている!

にほんご まな がいこくしゅっしん かた
日本語を学ぶ外国出身の方の
しせい まな
姿勢から学ぶ

やつだ たけみ (にほんごこうざじぎょうぶ)
谷田 健美さん (日本語講座事業部)

国際化が強まる中、退職後の私は、日本語教師になりたいと
いう思いを持ちました。そこで、日本語学校に入学し、日本語
教師養成科420時間総合コースを修了しました。

2011年4月より、国際交流協会日本語講座事業部に所属し、
活動しております。この間、この講座の事業部長、本部事務
局長及び国際交流サロン担当、監事を務めさせていただきま
した。いずれも新鮮さと責任の重さを感じました。

中でも、2年間で 12回行った国際交流サロンは印象深く残
っています。実施において念頭に置いたのは「日本の伝統・
文化、国際性、季節感」でした。総じて催しに参加された外国
出身の方々が多かったとは言えませんが、参加者全員がお互
いを認め合い、ほほえましく会話する情景が見られました。

現在、私は日本語講座事業部で、外国出身の方々に、
日本語を支援しております。日頃、受講生の皆さんの日本語
学習に対する熱意には、驚きと敬意を感じております。私自身

日本語講座の様子



も他の方々から
学ぶ姿勢を大切
にし、この会の
発展に寄与した
く思います。



## 出会いと別れの季節 —外国語講座事業部の春—

### 「英会話初級(橋本)」の終了

都合により、今年の3月をもって終了しました。2006年5月以来15年間、橋本清講師に務めて頂きました。この講座では、参加者が英語の重要な3要素である発音、文法、語彙に慣れ親しみ、偏りのないオールラウンドな英語を学べるようにすることを目標にできました。受講生に入れ替わりはあるもののいつも8人~10人ほどが学んでいました。橋本講師からは「このコースは終了しましたが、受講生の皆さんには今後も自習を続けていただき、得られた知識や経験を少しでも役立てていただきたいと思います。」というメッセージを頂いています。長年教鞭をお執りいただいた橋本講師のご労苦に心よりお礼申し上げます。

### 橋本先生の思い出

堀江節子

橋本先生は温和で誠実なお人柄、分からないことは何でも遠慮なく質問でき、私たちが納得いくまで丁寧に教えてくださいました。5年前クラスメイト6人でグアム旅行に出かけました。毎日大笑いの楽しい旅でした。先生が今期をもって講師を卒業されるのは大変寂しく残念ですが、穏やかに温かいクラス、勉強熱心で愉快的仲間たちと6年を過ごすことが出来て幸せでした。ありがとうございました。

### 講師の交替

- 「英会話上級」:ダーネル・ワトソン(Darnell Watson)講師が担当している上級2講座の内、1講座がジーク・グラント(Zeke Grant)講師に代わります。講座は第2、第4水曜日の午前。アメリカフロリダの出身の方。
- 英会話サロン:エミリー・ジョーンズ(Emilie Jones)講師に代わり、4月からラム・フィン(Lam Huynh)講師が担当します。ベトナム出身。イギリスに留学の後來日。木曜日の午後、市民活動推進センターで英語のおしゃべりをリードしていただきます。
- 両講師とも東京大学大学院(柏の葉)でサステナビリティ(Sustainability)領域を専攻しています。

### 研修報告

#### 「コロナ禍における市民活動の『創意工夫』と『実践事例』」

3月6日 流山市民活動推進センター主催

時宜を得たタイトルに、久しぶりの研修参加。講師は阿部剛氏、松戸で市民活動サポートセンター長やNPO協議会の理事他、広く市民活動を実践されている方。講師が実際に関わっている活動の中から、コロナ禍で孤立した子育て世帯や子供とのつながりをサポートするLINEやオンラインを活用した遊び場作り、フードバンクとこども食堂の連携を促進したり、食材頒布やキッチンカーとのコラボによる食を通じたつながりの支援、電話、手紙、屋外、オンラインをうまく組み合わせた高齢者のフレイル予防の為に社会参加を促す機会作り、市内の里山を活動場所として密を避けた新たな企画への取り組みなどが紹介されました。コロナ禍だからこそ求められる市民活動の器としての役割や、「何かあったらどうする?」の問題意識を見直し、「一歩二歩先の未来から仮説を立てて考えよう、といったまとめが印象に残りました。(西山勝)

### 文化交流事業部 活動報告

#### ワールドハーモニー オンライン公開レッスン

3月26日 on Zoom

いろいろな国の言葉で歌うワールドハーモニーのレッスンは毎日がチャレンジ。そして今回、ワールドハーモニーはコロナからの宣戦布告にも挑戦しました。あの日、花家部長がオンライン公開レッスンの企画を持ち出した時、誰もが驚きました。しかし、勇敢な战士们は誰一人躊躇しませんでした。チラシ印刷、体験者募集、曲決め、楽譜用意、さらに会わずに参加者の手元にどうすれば楽譜が届くか?战士们はテキパキ動き、助け合いで当日に漕ぎ着けました。レッスンは40分ずつの2部制で、いつもの西澤先生のピアノでラジオ体操から始まり、熊谷先生のストレッチ指導と発声指導で第1部が終わりました。休憩を挟んで、第二部は平先生のレッスン曲「Daydream Believer / ザ・モンキーズ」の英語の発音指導のあと、西澤先生の伴奏と熊谷先生の歌声を聞きながら、みんなで歌いました。



無料版Zoomの時間制限に追われてバタバタしましたが、ノイズを発生させないよう、歌う時は先生以外ミュートにするため、みんなの歌声は聞こえません。ですが、先生のきれいな歌声には癒されました。体験参加者4名のうち、1名が入会しました。ありがとうございます。ワールドハーモニーの戦いはNIFAの歴史に残りました。ワーハモの战士们はこれからもきっと挑戦し続けるでしょう!(李明勲)



# NIFA の新年度 ～新部長の抱負～

去る4月の通常総会で役員を選任が行われ、新たに4人の方が理事・部長に就任しました。これから2年間、NIFA 全体のことや各事業部の運営を担います。



## ➤ 総務部長 長田 麗子(おさだ れいこ)

2021年度から総務部長をお引き受けすることになりました。

NPO 法人化した当初から総務部はありませんでしたが、事務局長が兼務することがたびたびでした。加えてここ数年は経理担当者も総務の仕事も兼務され、本来の業務と合わせさらに忙しい状態となっていました。今後は国際理解サポートセンターでの窓口業務を担当させていただいた経験を活かし、少しでも NIFA 全体の業務の軽減化、迅速化ができればと思っています。



## ➤ 外国語講座事業部長

大場 進(おおば すずむ)

この度外国語講座事業部の部長を仰せつかりました大場です。私は、英会話のクラスに7年以上もお世話になっており、月2回のクラスの準備が生活の楽しみの一つになっております。一生徒でしかない私が、長年ご尽力されてきた西山前部長を引き継ぐなど、いささか無謀であったかと今になって心配になってます。幾つになっても外国語を学ぶということは刺激的で、新しい文化、仲間との出会いが楽しいものです。国際化の中で、外国人への支援や相互理解を深めるといふ NIFA の活動を外国語講座の運営を通してお手伝い出来ればと思っています。幸い4人の執行委員という力強い援軍をいただきました。5人で頑張っていりますので、各位のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



## ➤ ホームステイ事業部長

高橋 奉子(たはかし ともこ)

今年度よりホームステイ事業部長をさせていただきます。高橋です。

コロナ禍で、ホームステイの受け入れやそれに関連する行事ができない状況ではありますが、事業部としてどんなことができるのか、会員の方達とコミュニケーションを取りながら考えていけたらと思っています。前任の方々が作ってくださった、「楽しく、明るく、元気なホームステイ事業部」を継続していきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。



## ➤ 日本語講座事業部長

岩崎 佳代子(いわさき かよこ)

コロナ禍ではございますが、可能な範囲で日本語講座の開催をして参ります。今まで通り、和気藹々(わきあいあい)としたお教室の雰囲気を保ちながら、楽しく日本語を学んでいただけますよう力を注いで参る所存でございます。2年間、何卒よろしくお願ひいたします。



## サポートセンターは、全てに開かれた窓口、NIFA の顔でもあります ～業務の紹介～

江戸川台駅東口に降りて正面右手すぐ、3階建ての白亜のビルが目に入ります。1階が流山市役所の江戸川台出張所と「ファミリーサポートセンター」、2階が「ジョブサポート流山」、3階が私たちのいる「国際理解サポートセンター」です。この名称は流山市役所の一組織名。そう、私たちはここで流山市から委託されて相談業務を行っているのです。「国際化施策事業」、これが委託業務名。毎週月水金の10時から16時まで、主に外国出身の方向けの相談や依頼に応じています。相談受付の担当者はもちろん NIFA の会員、5、6名で日々交代しています。相談・依頼内容、出身国・地域、言語は様々、電話あり、来訪あり、当番に出かける朝は多少緊張します。相談・依頼に対し自らの知見を活かしその場で解決を見出せることもありますが、多くは他の会員の支援を得たり、他の機関・団体を紹介するなど、いわばネットワークを念頭に回答を見出します。こちらの対応に相談者・依頼者の笑顔が見えればハッピー。時には難問もあり、最大限の手立てを尽くしても最終解まで見届けることができず、気がかりがずっと尾を引くこともあります。でも地道な活動が少しでも相談者・依頼者の暮らしやすさにつながることを確信し、努力を続けています。流山市役所内の関連部署や日本の方からの相談・依頼もあります。NIFA の活動全般について電話、来訪での問い合わせ、相談、依頼にも応じている NIFA の「顔」でもあります。2021年度は中橋(事務局長)、橋本、野田、安江(各外国語支援事業部)、西山(経理部長)が担当します。



### 編集後記

「ワクチン接種はすんだ?」。あなたのそばの外国出身の方にもこう声をかけてみませんか? 接種を受けたいのにどうしていいかわからない、という人がいないよう、そろそろ挨拶代わりのつもりで。(腕まくりをして待っている〇〇高齢者)